

2021年7月29日

## 2020年度「市民防災・減災活動公募助成」事業実施報告書

団体名 特定非営利活動法人シニアSOHO世田谷  
代表者・役職名 氏名 代表理事 山根 明

### ▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調でお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

### 1. 助成プロジェクト名

名称:防災の常識が変わる!コロナ禍時代に知っておきたい防災知識 活動地域:首都圏

### 2. 団体の概要(創設の経緯、創設時期=法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、その段階からご記入ください。 会員数など。180文字程度まで)

2003年11月 会設立以来シニアのITリテラシー向上のためにパソコン講座開催。2010年全国に先駆けてiPad講座を最近はスマホ講座を開催。独立行政法人福祉医療機構WAMの2014年度「シニアの認知症予防のためのiPad講座事業」を受託。2017年9月に活動を認められ内閣府特命大臣表彰「社会参加章」を授与。2018年6月には内閣府の「高齢社会白書」に会の紹介が掲載。会員30余名。

### 3. プロジェクトの目的とその背景(※応募申請書に記載のものでも可) 250文字程度まで

〔元気なシニア〕が地域で生き生きと活動する居場所と出番づくり  
〔若い世代にありシニアになるとなくなる〕「行くところ」「会う人」「やること」を創ります  
〔孤立や認知症〕という高齢化社会の問題解決のお手伝い

### 4. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度まで

〔情報収集の方法〕では、

①防災情報やコロナ情報の収集はスマホが便利 ②スマホで防災情報やコロナ情報を収集する方法をお伝えいたしました。

〔孤立を防ぐ方法〕では、

①災害時における連絡方法 ②新型コロナウイルス流行に伴い、情報収集や家族との連絡をとるのにスマホの活用、災害時にも役に立つLINEの使い方、対面だけなく、オンラインビデオ通話・リモートでも使えることをお伝えしました。

「人生100年時代を生きるシニア」、シニアがスマホを楽しく、便利に有効活用して行けるよう、「今後も、楽しく、分かりやすく、同じことを10回聞かれても、お応えいたします」をモットーにサポートします。

### 5. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度まで

たび重なる「新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言」「まん延防止等重点措置」の発令の影響で予定会場が使用できませんでした。(会場数:当初予定の7会場から5会場に変更)  
・コロナ禍でしたが、なんとか講座回数:延20回 175名(予定210名に対し83.3%)の参加を見ました  
・プロジェクトはシニアSOHO世田谷と友好1団体および世田谷区社会福祉協議会の玉川地域社協事務所とのコラボレーションでおこなわれた  
・本プロジェクトを契機に世田谷区社会福祉協議会(5地域社協事務所)と今後の提携が期待できます。

6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字まで

- ・いかに広く広報するか(世田谷区報への掲載を、と考えましたが躊躇)
- ・このプロジェクトの今後の展望は大いにあります 繼続して実施したいが資金に難あり 今後少額でも継続していただけると有難い
- ・コロナ禍時代、新しい生活様式となり、シニアが取り残されなないように、対面講座とオンライン講座の両方が出来るように、サポートしたいと考えています。今後はシニア向けだけではなく障害者向けのプロジェクトもぜひ実施したいと思います

7. 参考資料:プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等の現物またはコピー、活動状況の写真などを、“必ず”、別途、ご提供ください。

※別ファイルで同送させていただきます。よろしくお願ひいたします。